

今日はII列王記9章から「みことばの成就」と題して3つの点でみことばを取り次ぎます。

1. 油注がれたエフー 1-13

今日の箇所はみことばの成就についての出来事です。そこで3つの点でそれぞれの出来事を語り、第4の点で私たちへの適用をまとめて語ります。

1-5【1 預言者エリシャは預言者の仲間たちの一人を呼んで言った。「腰に帯を締め、手にこの油の壺を持って、ラモテ・ギルアデに行きなさい。2 そこに行ったら、ニムシの子ヨシャファテの子エフーを見つけなさい。家に入って、その同僚たちの中から彼を立て、奥の間に連れて行き、3 油の壺を取って、彼の頭の上に油を注いで言いなさい。『主はこう言われる。わたしはあなたに油を注いでイスラエルの王とする。』それから、戸を開け、ぐずぐずしてないで逃げなさい。』4 その若者、預言者に仕える若者は、ラモテ・ギルアデに行った。5 彼が来てみると、ちょうど、軍の高官たちが会議中であった。彼は言った。「隊長、申し上げることがございます。」エフーは言った。「このわれわれのうちのだれにか。」若者は「隊長、あなたにです」と答えた。】

エリシャは預言者の若者の一人に、「ラモテ・ギルアデにいるエフーの所に行き、彼の頭に油を注ぎ、『主はあなたをイスラエルの王とする』と告げ、すぐに逃げなさい」と伝えました。若者はラモテ・ギルアデ行きました。ラモテ・ギルアデは8章の最後で、イスラエルの王ヨラムとユダの王アハズヤが共に、アラムの王ハザエルと戦った場所です。ヨラムは傷を負い、先にイズレエルに戻りましたが、ヨラムの部下で隊長のエフーはそこに残っていました。若者は隊長エフーに申し上げることがあると伝えました。

6-10【6 エフーは立って、家に入った。そこで若者は油をエフーの頭に注いで言った。「イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしはあなたに油を注いで、主の民イスラエルの王とする。7 あなたは、主君アハブの家の者を打ち殺さなければならない。こうしてわたしは、わたしのしもべである預言者たちの血、イゼベルによって流されたすべての主のしもべたちの血の復讐をする。8 それでアハブの家はことごとく滅び失せる。わたしは、イスラエルの中の、アハブに属する小童から奴隷や自由の者に至るまでを絶ち滅ぼし、9 アハブの家をネバテの子ヤロブアムの家のように、またアヒヤの子バアシャの家のようにする。10 犬がイズレエルの地所でイゼベルを食らい、彼女を葬る者はだれもない。』」こう言って、彼は戸を開けて逃げた。】

エフーが立って家の中に入ると、若者はエフーに油を注ぎ、次のことをエフーに伝えました。「主はあなたをイスラエルの王とする。あなたはアハブの家の者を打ち殺さなければならない。こうしてイゼベルによって流された預言者たちの血の復讐をする。アハブ家はことごとく滅び失せる。犬がイゼベルを食らい、彼女を葬る者はいない。」こう言ってから、若者は戸を開けて逃げました。

11-13【11 エフーが彼の主君の家来たちのところに出て来ると、一人が彼に尋ねた。「何事もなかったのですか。あの気のふれた者は何のために来たのですか。」すると、エフーは彼らに答えた。「あなたたちは、あの男も、あの男の言ったこともよく知っているはずだ。」12 彼らは言った。「嘘でしょう。われわれに教えてください。」そこで、彼は答えた。「あの男は私にこんなことを言った。『主はこう言われる。わたしはあなたに油を注いで、イスラエルの王とする』と。」13 すると、彼らはみな大急ぎで自分の上着を脱ぎ、入り口の階段にいた彼の足もとに敷き、角笛を吹き鳴らして、「エフーは王である」と言った。】

エフーが元の場所に戻ると、王の家来の一人在、何かあったのかと尋ねました。彼は預言者の若者を「気のふれた者」と言っていますが、預言者の若者のふるまいが異常に見えたのでしょう。エフーは最初は答えをはぐらかしますが、彼らが「我々に教えてください」と言ったので、あの男は、「主が私に油を注いでイスラエルの王とする」と言ったと伝えました。すると彼らは上着を彼の足元に敷き、角笛を吹き鳴らして、「エフーはイスラエルの王である」と宣言しました。

第1の点では、エフーが油注がれて、王となった出来事です。エフーが王となることは、すでに神がエリヤに告げられました。I列王記19:16で神がエリヤに「エフーに油を注いでイスラエルの王とせよ」を言われたことを、エリヤの後継者のエリシャが実行したのです。さらにアハブ家の滅亡と、犬がイゼベルを食らうという預言も、I列王記21章でエリヤがアハブにすでに伝えていきます。それらのことが成就するとエリシャに遣わされた若者が伝えたのです。

2. オムリ王家の滅亡 14-29

14-16【14 こうして、ニムシの子ヨシャファテの子エフーは、ヨラムに対して謀反を起こした。先にヨラムはイスラエル全軍を率いて、ラモテ・ギルアデでアラムの王ハザエルを防いだが、15 ヨラム王は、アラムの王ハザエルと戦ったときにアラム人に負わされた傷を癒やすため、イズレエルに帰っていたのである。エフーは言った。「もし、これがあなたたちの本心であるなら、だれもこの町から逃れ出て、イズレエルに知らせに行ってはならない。」16 それからエフーは車に乗ってイズレエルへ行った。ヨラムがそこで床についていて、ユダの王アハズヤもヨラムを見舞いに下っていたからである。】

ラモテ・ギルアデでエフーが王となったことは、イズレエルにいるヨラム王には知られていませんでした。エフーはそのことをイズレエルに知らせしてはならないと言い、ヨラムに対して謀反を企て、車に乗ってイズレエルに向かいました。

17-20【17 イズレエルのやぐらの上に、一人の見張りが立っていたが、エフーの軍勢がやって来るのを見て、「軍勢が見える」と言った。ヨラムは、「騎兵一人を選んで彼らを迎えに送り、元気がどうか尋ねさせなさい」と言った。18 そこで、騎兵は彼を迎えに行き、こう言った。「王が、元気がどうか尋ねておられます。」エフーは言った。「元気がどうか、おまえの知ったことではない。私のうしろについて来い。」一方、見張りは報告して言った。「使者は彼らのところに着きましたが、帰って来ません。」19 そこでヨラムは、もう一人の騎兵を送った。彼は彼らのところに行き、「王が、元気がどうか尋ねておられます。」すると、エフーは言った。「元気がどうか、おまえの知ったことではない。私のうしろについて来い。」20 見張りはまた報告した。「あれは彼らのところに着きましたが、帰って来ません。しかし、車の御し方は、ニムシの子エフーの御し方に似ています。狂ったように御しています。】

見張りが遠くからエフーの軍勢がやって来るのを見て、王に報告しました。ヨラムは、ラモテ・ギルアデで何か異常なことが起こったのではと不安になり、騎兵一人を迎えに行かせました。ここに出て来る「元氣」はシャローム、平安、平和の意味で、イスラエルでは今も挨拶の言葉として使われています。しかし迎えに行った一人目の騎兵も、2人目の騎兵も帰って来ません。見張りはエフーが粗っぽい御し方に向かって来ることを伝えました。

21-26【21 ヨラムは「馬をつけよ」と命じた。馬が戦車につけられると、イスラエルの王ヨラムとユダの王アハズヤは、それぞれ自分の戦車に乗って出て行った。彼らはエフーを迎えに出て行き、イズレエル人ナボテの所有地で彼に出会った。22 ヨラムはエ

フーを見ると、「エフー、元気か」と尋ねた。エフーは答えた。「何が元気か。あなたの母イゼベルの姦淫と呪術が盛んに行われているのに。」23 それでヨラムは手綱を返して逃げ、アハズヤに「裏切りだ、アハズヤ」と叫んだ。24 エフーは力いっぱい弓を引き絞り、ヨラムの胸を射た。矢は彼の心臓を射抜いたので、彼は戦車の中に崩れ落ちた。25 エフーは侍従のビデカルに命じた。「彼を運んで、イスレエル人ナボテの所有地であった畑に投げ捨てよ。思い起こすがよい。私とあなたが馬に乗って彼の父アハブの後に並んで従って行ったときに、主が彼についてこの宣告を下されたことを。」26 『わたしは、昨日、ナボテの血とその子たちの血を確かに見届けた—主のことば—。わたしは、この地所であなたに報復する—主のことば—。』それで今、彼を運んで、主が語られたとおり、あの地所に彼を投げ捨てよ。】

ヨラムは自分を見舞いに来ていたユダの王アハズヤと共に、それぞれ自分の戦車に乗ってエフーを迎えに行きました。この時まだエフーが謀反を起こし、自分を殺しに来ているとヨラムは気づいていませんでした。彼らはちょうどナボテの所有地で会いました。ヨラムは「エフー、元気か、シャローム」と伝え、エフーは「何が元気か。あなたの母イゼベルの姦淫と呪術が盛んに行われているのに」と言ったのです。これを聞いてヨラムは、エフーが謀反を起こし、自分を殺しに来たと悟り、逃げましたが、エフーに射抜かれて死にました。エフーはナボテの地にヨラムを投げ捨てるように言いました。ナボテの畑は、イゼベルがナボテを虚偽の訴えで殺し、アハブが取り上げた場所です。神はこのことに対する審きを行われたのです。

27-29【27 ユダの王アハズヤはこれを見ると、ベテ・ハ・ガンの道へ逃げた。エフーはその後を追いかけて、「あいつも討ち取れ」と叫んだので、彼らはイブレアムのそばのグルの坂道で、車の上の彼に傷を負わせた。それでも彼はメギドに逃げたが、そこで死んだ。28 彼の家来たちは彼を車に乗せて、エルサレムに運び、ダビデの町の彼の墓に先祖とともに葬った。29 アハズヤはアハブの子ヨラムの第十一年に、ユダの王となっていた。】

ヨラムと共にいたユダの王アハズヤもエフーによって殺されました。Ⅱ歴代誌 22:7 を見ると「アハズヤがヨラムのもとに行って滅びたのは、神から出たことであった」とあります。神はご自身に逆らうヨラムに協力するアハズヤもさばかれたのです。

第2の点はオムリ王家の滅亡です。アハブの家の滅亡は彼の父から始まったオムリ王家の滅亡を意味します。北イスラエル王国は、ヤロブアム王家、バアシャ王家、オムリ王家と続きましたが、みな神のさばきを受けて滅びました。そして最後の王家となるエフー王家が始まります。一方、南ユダ王国は、一人の例外を除いて、すべての王はダビデ王家から出ています。南ユダの王も神を信じる王と信じない王が出ますが、主はダビデに免じて、ダビデの子孫が王となるのです。

3. イゼベルの最後 30-37

30-37【30 エフーがイスレエルに来たとき、イゼベルはこれを知り、目の縁を塗り、髪を結び直して、窓から見下ろしていた。31 エフーが門に入ってきたので、彼女は「お元気ですか。主君殺しのジムリ」と言った。32 彼は窓を見上げて、「だれか私にくみする者はいないか。だれかいらないか」と言った。二、三人の宦官が彼を見下ろしていたので、33 彼が「その女を突き落とせ」と言うと、彼らは彼女を突き落とし、彼女の血が壁や馬にはねかかった。エフーは彼女を踏みつけた。34 彼は中に入って食べたり飲んだりし、それから言った。「あののろわれた女の世話をしな。彼女を葬ってやれ。あれは王の娘だから。」35 彼らが彼女を葬りに行ってみると、彼女の頭蓋骨と両足と両手首しか残っていなかった。36 帰って来てエフーにこのことを知らせた。するとエフーは言った。「これは、主がそのしもべティシュベ人エリヤによって語られたことばのとおりだ。『イスレエルの地所で犬がイゼベルの肉を食らい、37 イゼベルの死体は、イスレエルの地所で畑の上にまかれた肥やしのようになり、だれもこれがイゼベルだと言えなくなる。』】

第3の点はイゼベルの最後です。イゼベルはヨラムが殺されたことを知り、自分も殺されることを悟り、王妃としての威厳を保つために、身を整えました。「主君殺しのジムリ」とはバアシャ王家を滅ぼしたジムリのことで、彼は7日間だけ王となり、殺されました。エフーもジムリのように皮肉ったのです。彼女はエフーに協力した宦官たちによって窓から突き落とされて死にました。エフーは彼女を踏みつけて中に入り、食事をし、家来に「彼女を葬ってやれ」と言いました。彼らが外に出ると、彼女は犬に食われ、頭蓋骨と両足と両手首しか残っていなかった。エフーに報告しました。エフーは、これはエリヤによって語られたことばの通りだと言いました。

4. みことばの成就

このように、主がエリヤとエリシャを通して語られたことはすべて成就しました。私たちは主のことば、みことばの成就を通して、次のことを教えられます。

まず、神のことば、みことばを信じることの大切さです。ルカ 1:45 にはこうあります。「主によって語られたことは必ず実現すると信じた人は、幸いです。」これはエリザベツがマリアに語ったことばです。マリアは御使いから、自分が聖霊によって救い主となる男の子を産むと告げられたことを信じました。そしてそのとおりマリアから救い主イエスが誕生しました。神のことばは必ず成就します。なぜなら、みことばを語られる神ご自身が真実なお方だからです。私たちにとってみことばを信じる第一歩は、救い主イエス・キリストを自分の救い主と信じることです。その時みことばの約束は私たちのうちに成就し、すべての罪が赦されて、神の子もとしての新しい人生が始まります。

次に、みことばによって養われ、信仰の成長をすることです。パウロは使徒 20:32 でこう言いました。「今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。みことばはあなたがたを成長させ、聖なるものとされたすべての人々と共に、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。」みことばは私たちが天国に行くまで、この地上にあって私たちの信仰を養い、成長させるための霊の糧です。

最後に、みことばを伝える人になることです。今日の箇所でもエリシャから遣わされた若者の預言者がエフーに告げたことばによって、神のことばが次々に成就していきました。私たちが伝えるみことばを信じる人には、必ずその人のうちにみことばが成就し、キリストの救いの実が実ります。「みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい」とあります。私たちも神から遣わされて、救いを得させる神のことばを宣べ伝える人になりましょう。